

風しん第5期予防接種説明書

風しんについて

風しんは、風しんウィルスの飛沫感染によっておこり、発しん、発熱、首や耳の後ろのリンパ節がはれることなどが主な症状です。その他の症状では、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などの合併症を併発することがあります。また、免疫のない妊婦が妊娠初期にかかると白内障、心疾患、難聴等の障がいをもつ先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれることがあります。予防するにはワクチン接種が有効です。

予防接種の効果

予防接種を受けると95%以上の人が風しんウィルスに対する免疫を獲得することができますとされています。

予防接種の副反応

主な副反応は、発熱、発しん、発赤、はれ、しこり、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどです。まれに、アナフィラキシー（全身のアレルギー）、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどが報告されています。

予防接種を受けることができない方

- ①明らかな発熱（37.5℃以上をいいます）している方
- ②重篤な急性疾患にかかっていることがあきらかな方
- ③この予防接種の接種液に含まれる成分によって、アナフィラキシー（全身のアレルギー）を起こしたことがある方
- ④その他、医師が不適切な状態と判断した場合（上記①～③に当てはまらなくても医師が接種不相当と判断した場合は、予防接種を受けることができません）

予防接種を受ける際に、医師とよく病気の相談をしなければならない方

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液などの基礎疾患がある方
- ②過去に予防接種で、接種後2日以内に発熱、発しん、じんましんなどのアレルギーと思われる異常が見られた方
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④過去に免疫不全の診断がなされたことがある方及び近親者に先天性免疫不全の方がいる方
- ⑤この予防接種の接種液に含まれる成分に対して、アレルギーを起こす恐れがある方

予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ②予防接種後に接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③入浴は差し支えありませんが、接種部位を強くこすらないようにしてください。
- ④接種当日は、いつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい運動や過度の飲酒は避けましょう。

予防接種健康被害救済制度

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、国の審査会で審議し、予防接種によるものと認定された場合は、予防接種に基づく給付を受けることができます。